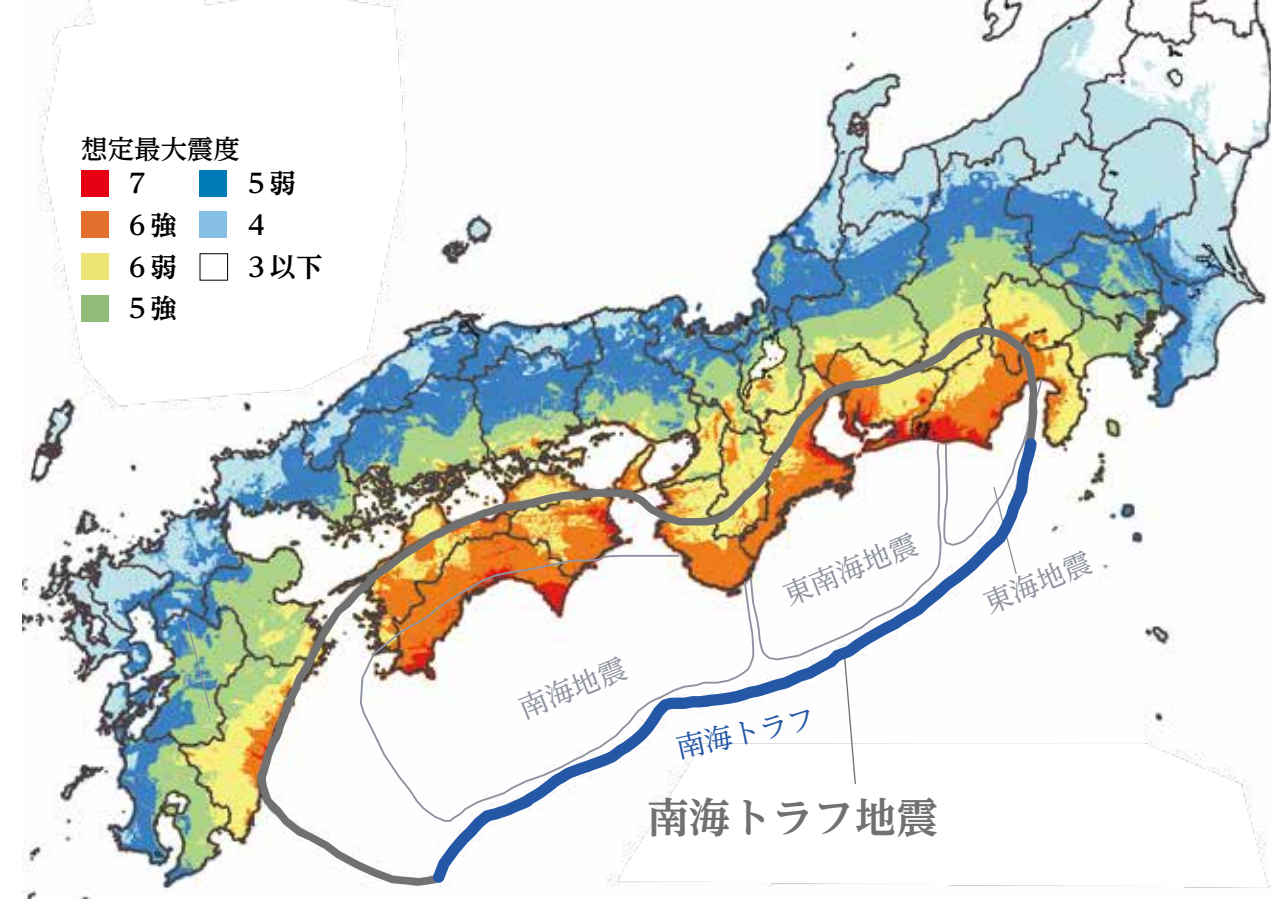


いつ起きてもおかしくない

南海トラフ地震



大規模な南海トラフ地震は、大きく「東海地震」「東南海地震」「南海地震」などの震源域に分かれ、およそ100～150年間隔で繰り返し発生しており、東南海地震および南海地震は、前回発生してから約80年、東海地震においては、約170年大規模な地震が発生していません。

このため、南海トラフ全域で大規模地震の切迫性が高まっています。南海トラフ地震の過去の事例を見ると、駿河湾から四国沖の広い領域で同時に地震が発生したり、マグニチュード8クラスの大規模地震が隣接する領域で時間差をおいて発生したりしています。

その時間差は、32時間後や2年後といったように幅があるのが特徴です。

南海トラフ地震臨時情報

南海トラフ地震が発生する可能性が通常と比べて高まったと評価された場合は気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されます。情報には次の2つがあります。

地震が発生

地

震が起きたら、まずは近くにある安全な場所です。身をを守る行動を最優先にとりましょう。大きな揺れを感じたからといって、いきなり外に飛び出るのは危険です。

その後、揺れが収まったあわてず、転倒・落下した家具やガラスの破片に注意しながらドアや窓を開け、逃げ道を確保しましょう。

震源が近いと津波警報・注意報の発表が津波の来襲に間に合わないことがあるため、「揺れたら避難」を心がけ、ここなら安全と思いきまず、より高い場所に避難することが大切です。

そして、避難する際は、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉め、徒歩で避難するようにしましょう。しかし、いざというとき、焦らず行動するのは難しいものです。日ごろから家族と避難場所や避難経路を確認し、地震への備えをおきましょう。

「揺れを感じたらまずは身を守る行動を」

屋内で 頭を保護して机の下など、頑丈な場所に隠れる

屋外で ブロック塀や電柱などがある場所から離れる

沿岸部で 津波の発生・来襲に備えて、安全な場所に避難する

◆巨大地震警戒

想定震源域のプレート境界でマグニチュード8・0以上の地震が発生した場合に発表されます。発表された場合には、次の揺れに備えて家庭内の防災対策や緊急時の安否確認方法など、日ごろの備えを再確認するほか、後発地震の発生時、津波到達までに避難が間に合わない地域の方は事前に避難してください。

◆巨大地震注意

想定震源域、または周辺でマグニチュード7・0以上の地震が発生、または揺れを感じることはない、プレート境界面のゆっくりとしたずれによる地殻変動を観測した場合などに発表されます。通常よりも大地震発生の可能性が非常に高まった状態であるため、巨大地震警戒と同様に日ごろの備えを再確認してください。

南海トラフ沿いで発生したマグニチュード (M) 8クラスの地震				
発生年	南海地震	東南海地震	東海地震	規模
1605	慶長地震			M7.9
↑ 102年後 ↓				
1707	宝永地震			M8.6
↑ 147年後 ↓				
1854		安政東海地震		M8.4
	安政南海地震			M8.4
↑ 90年後 ↓				
1944		東南海地震		M7.9
1946	南海地震			
↑ 77年経過 ↓				
2023				

(参照) 三重県防災ガイドブック

表 巨大地震警戒が発表された際の避難所	
地区	開設避難先
井田	下り場集落センター、ウミガメ公園(3階)、井田小学校、上野農事集会所
鵜殿	役場本庁舎(3階以上)、防災拠点施設5階、まなびの郷、鵜殿小学校
神内	神内小学校
成川	成川防災備蓄倉庫、就業改善センター(3階以上)、上地多目的集会施設
高岡	高岡防災センター
北檜杖	北檜杖多目的集会施設
浅里	飛雪の滝キャンプ場、川丈班消防車庫
大里	ふるさと資料館、田代体育館、中高年齢者就業改善施設(小畑)、大里多目的集会施設、相野谷中学校、津本防災センター
井内	相野谷小学校
平尾井	高齢者生産活動センター
桐原	桐原生活改善センター

町 は南海トラフ地震臨時情報の巨大地震警戒が発表された場合、後発地震の発生時、津波到達までに避難が間に合わない地域とされる鵜殿全域、井田地区(茶屋地、馬場地、上野)、高岡地区(輪中堤内)、成川地区(飯盛)に避難指示を発令します。該当する地域の方は安全が確保された親戚や知人の家などに避難するか、左の表の避難所を臨時情報発表

から警戒対応と注意対応期間として、2週間開設しますので避難してください。開設する避難所については、町防災メールおよび町ホームページ、防災無線などでお知らせします。詳しくは、町ホームページに掲載している町地域防災計画をご覧ください。



町防災計画